生涯学習情報誌

7+1/

第 32 号 2006年11月25日

発 行

常陸太田市フォンズ・ネットワーク 事務局 常陸太田市生涯学習センター内 〒313-0061 茨城県常陸太田市中城町3280番地 TEL 0294(72)8888 FAX 0294(72)8880



水の想い出 31

道城井戸

毎朝、掃除洗濯などの家事が一段落する頃、台車に白いポリタンクを載せてどこかへ向かう人々を見かけます。水府地区、北小学校のそばにある「道城井戸」へ水を汲みに出かける人たちなのです。

昔、水戸光圀公が天下野にお出かけになった折お休みになられたという「御成御殿跡」も近くにある道城井戸の水は光圀公のお茶の水に使われたといわれています。水汲み場には長柄のひしゃくや、地域の方の手作りらしいペットボトルを再利用した漏斗も用意されています。湧き水は豊富、井戸のふたを開けると写真のような短いひしゃくで十分に届くところにきらきらと光る水面があります。水質検査も行われていますが多くの方は沸かしてお茶用になさるとか…。空と山と森の恵みの水を沸かしてお茶をいただけるという贅沢は、自然豊かなこの地域ならではのものでしょう。

コンビニやスーパーの棚に並べられたペットボトル入りの天然水を見るにつけ、「水を買う」ということに今でも違和感を覚えますが、都会のマンションでは浄水器が当たり前。湧き水を汲んで飲める地域と、そこに暮らす人々が大切に守ってきたものを、このままの美しさで子供たちに残したいと思いました。

井戸後方の里山の木々が雨に濡れて一段と緑を濃くしたある日、雨の中にもかかわらず今日も水 汲みの人が訪れていました。 (塩原 慶子)



冬のきらめきに会いに行こう!*ボ

国道349号の「さとみ街道イルミネーション祭」は、 今年で7年目を迎え、60件を超えるアマチュア電飾家が 誕生。里美は文字通り「美しい里・光の芸術空間」です。



手づくりキャラクターす・ご・い!

「里美の子ども達に夢を!」と子どもたち向けにかわいらしい飾り付けを心がけている「レストランこぐま」の生熊和子さん。ひとつの部屋が電飾でいっぱいになっているそうです。(写真右)



ミレニアムカウントダウン



ご近所に一本ずつイルミネーションを 配って「皆でやりましょ」と参加者を 増やす満寿屋商店の白石泰子さん(写真左)

さとみ街道イルミネーション祭

開催期間:平成18年12月10日(日)~31日(日) 点灯時間:午後5時~9時(大晦日は12時位まで)

里美ふれあい館

12月23日(土) ハンドベルコンサート

(午後7時~)

12月23・24日(土・日) 甘酒サービス (午後6時~8時)

問合せ先:里美観光協会事務局

TEL 0294-82-2111 内線58





幻想的な光のかさ 道の駅さとみ

袋田の滝

至大字町

至 大子町

イリリュネーション地図(2005年) (〇参加者)

福島県至矢祭町

小中 -錦足山 JA里美

徳田

小妻

大中

村民文化センター

至水府

小菅

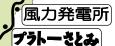
折橋

至水府

県内外からも泊りがけで訪れる人が増えているのは、寒い季節にもめげず、思いをこめて参加する「イルミネーションのようにきらきら輝く人たち」がいるからです。



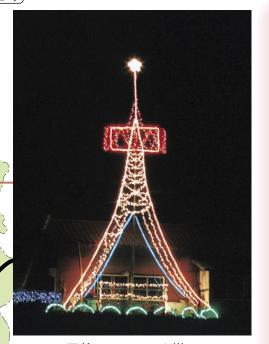
里美ふれあい館 夕暮れから光の変化も素敵な



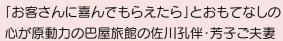
至 高萩市

里川

里美牧場



里美のエッフェル塔?







干支や話題を題材に、今年は何かな?



実際に見たいですねー



取材をして、里美の人の人情・やすらぎにふれることが出来て非常にうれしく勉強になったなぁ。まだまだいろんな話が聞けそうです。見に行ったらお話をゆっくり伺えればと強く感じたね-。 (高橋靖浩)

何度も出かけていたのですが、今まで見ていたのは、ほんの一部だけ。こんなにたくさんあったのなんて驚きました。皆さんのお話を聞いて今年は「ぐるっと里美をまわって満喫」してみたくなりました。熱々の広東麺やコーヒーも……(相原早苗)



HOT SPAR

道の駅さとみ



光による夢の架け橋

イルミネーションのプロ



繁 伯 さん



■いつごろから?

2002年12月発行のフォンズ14 号でもご紹介したことのある亀作町の大きな「光の橋」。最初は通りからちょっと入ったご自宅に「個人的な遊びでミレニアムの時に飾りはじめた」そうです。付近は道も細くご迷惑をかけかねないというご配慮から、当時は「名前などの掲載を控えて」というご希望でした。その後路沿いの田んぼに移動なさったため、その美しいイルミネーションの存在はつまで伝わり実際目になさながち多いことと思います。残念なが ら今年は飾りつけをなさる予定はないとか…。

■一番の喜び

「飾りにいくらかかるのかよく尋ねられますが、お金じゃないんですよね」「今は安くてかっこいいできあいのものがたくさん輸入されてます。楽にきれいにしたいなら、買って飾り付ければそれでOK」「今年はどんな飾りにするか、どうやったらきれいな形が作れるか考えて考えて…。」「昼間では光の加減が確認できないのでほとんどが仕事を終えてからの夜の作業です。もちろん寒いし、鼻水まで(笑)。さぁ完成した、

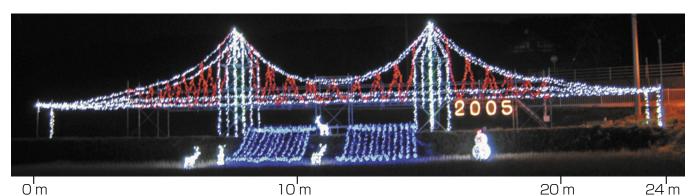


そして初めて点灯して光が見える、 その瞬間が最高の楽しみなんです」

■シビックセンター!?

日立駅前のイルミネーションのデザインや飾りつけにもたずさわっていらっしゃいます。クリスマスの準備は「10月からじゃ遅いくらい。何度も木を登り降りして調整するので本当に大変です」滝野さんのお話を伺ってから、イルミネーションの見え方が違った気がします。

(高橋 靖浩)



イルミネーションデビューしてみよう!

「今はいろんな規格品が出ているので手軽さならそちらがお勧め。でも自分で作る楽しさを味わいたければ…」。



ご家庭でお子さんたちと楽しみながら作ったイルミネーションはきっと色合いや光のゆらめきが一味違って見えるはず。クリスマス定番「星」を実際に作って見せていただきました。

- ①木枠・金網などで形を作る。
- ②金銀のモールなどをバインド線でとめながら 飾りつける。
- ③LEDランプリード線を巻きつける。LEDの線
- は必ずよじれを解いてから使うのがポイント。二人でやると簡単。
- ④リボン・ベル・リングを飾る。
- ⑤電源を入れ、配色や明かりの位置を確認する。









試作品は生涯学習センターに飾ってありますのでぜひご覧になってください

フォンズのバックナンバーはホームページでご覧になれます。

常陸太田市(http://www.citv.hitachiota.ibaraki.ip/)→「生涯学習センター」→「情報誌」です。

緑大豆青ごぜんの

お豆腐・含る豆腐はいかがん

クリスマスイルミネーションのペ ージでもご紹介している白石泰子さ んは「おばあちゃんの味研究室」と いうグループで緑大豆・青ごぜんで お豆腐を作っています。地元特産品 開発の一環でまったくの素人から研 究を重ねてきました。豆を栽培する ところからのすべて「本当の手作り」 です。「畑の写真は撮られるのいや なんだよねぇ。草ぼうぼうで(笑)」。 トレーサビリティ(野菜や肉などの 生産・流通履歴) が重要視される時 代ですが、すぐそこで栽培・製造さ れる場面を目にすることができると いうこと、これ以上安心安全の保障 されるものはないでしょう。おから の色までほんのりと緑色、その淡い 色あいこそ「自然」そのものではな いでしょうか。





今日は青ごぜんの「ざる豆腐」作りを見せていただきました。「いまどきこんなのまで手でやってる豆腐屋ってないよね」とこちらも笑って説明くださいますが、ハンドルを回して絞る作業は結構な力仕事です。





この容器はざる豆腐用。一般に売られているものはざるも込み。見た目は雰囲気がありますが、製造過程の簡略化であったり、また小さなざるも数がたまると結局はごみになりかねません。二つ一緒に青い豆腐パックに並んだ姿はなんともほほえましいかぎりです。 (塩原慶子)





もうひとつ「常陸大黒」は茨城県 が育成した日本で唯一の黒一色のベニバナインゲンです。この豆を利用 して作った煮豆はまずその大きさに びっくり、いただいてみると柔らか さにもう一度驚かされます。手抜き 主婦を自称する身としてはお正月の 黒豆のかわりになどと思いついてしまいます。栄養価にも優れ、ポリフェノールは黒大豆の3倍とか。今年からよその地区でも栽培されるようになりましたが、里美地区「福徳常陸大黒の会」が先駆者。お豆腐と常陸大黒の工房は隣りあわせで、随時おいしいお豆製品が手づくりされています。 (塩原慶子)

※どちらも、里美地区の生産物直売所(イルミネーション地図★)で購入できます。

るかなかつまれていることできません

学び舎から 同間等級

常陸太田市立 太田中学校

本校では毎年秋にPTA主催の「両親学級」を実施しています。両親学級は当日たくさんの保護者に参加していただくための名称で、内容は生徒と共に講演会や芸術鑑賞等を実施する活動です。

今年の両親学級は「しらとり太鼓」の公演でした。



しらとり太鼓とは、 筑西市(旧下館 市)にある知的障 害者更正施設「ピ アしらとり」で、 10年位前に知的 障害のある方々の音楽活動としてスタートし、施設の職員や地域の方々もメンバーとなっています。大小合わ



せて25台の太鼓の演奏は豪快そのものです。また、演奏とともに登場する全長10mもある龍8頭の壮大な舞も見事です。今回は両親学級の前に道徳の授業等も公開したため、全校生徒、保護者に加え地域の方々や近隣の高等学校の先生にも鑑賞していただきました。1時間ほどの公演でしたが、その迫力に圧倒された密度の濃い時間でした。

東染地区の老人会、東染めニコニコクラブ(吉澤耕一会長)には、79歳から91歳までの6人のおばあちゃんが活躍する手芸部があり、日本の伝統工芸品の手まりを作っています。忙しい農作業や家事のかたわら、週に一度は集まって一緒に作業をし、教えあったり、意見を聞いたり、次の作品のモチーフを考えたりと勉強も怠りません。

先生役は吉澤サクさん。メンバーきって技術者です。サクさんのデザインは実に独創的。これからの季節には「サンタクロース」が登場します。最高齢の椎名てるさんの作品はとてもモダン。幾何学模様や大胆な色彩で見る人を元気にさせてくれます。花のモチーフ

サンタクロースの手載り 水面の里 単世書取り 一直発ニコニコクラブ 手芸部

が得意なのは、一番手早な樫村うめ子さん。「好きな花はやっぱり梅かな。松竹梅にも挑戦しようかしら」。いつも物静かな椎名洋子さんの作品は緑側の陽だまりのよう。やわらかくかわいらしい色合



いの作品はどこか懐かしく心を和ませてくれます。小花模様のちりめん手まりも得意です。吉澤はる江さんの手まりには、はんなりとした味わいがあります。少し渋めの色合いに日本的な美のセンスを

感じます。一番若い岡澤はついさんは手芸部の会長さん。若々しく元気のいい作品を作りつつ、会をまとめています。おばあちゃんたちの作品は竜神大吊橋物産センターで地元工芸品として展示され、購入することもできます。

「いつも元気でいられて幸せ、 家族みんなが元気で幸せ、皆で仲 良く手まりが作れて幸せ」として名 づけられた手まりには、永き人生 を積み重ねて来られた方の溢れる ほどの愛情がこめられているので しょう。お訪ねした日の皆さんの 少女のような笑顔が印象的でした。

(菊池幾子)



手まりプレゼント幸せ手まりを6人の方にプレゼントします。はがきに住所・氏名・年齢・フォンズの感想を 書いて生涯学習センターへお申し込みください。締め切り12月20日 当選者にはクリスマスごろ手まりが届きます。







冬は大根がおいしい。煮物、漬け物、サラダ、おろし… と多様に使える大根は冬野菜の代表選手。わが農園で も大根は、毎週配達する野菜セットに10月から3月まで 1本ずつ入る。しかし、若い人ほど大根が続くともてあま すようで、食べ方などを聞かれることも多い。私も自ら農 業をやるまでは、大根がこんなに使える作物だとは知り えなかった。里美に住むようになって、まわりの人たちが 並々ならぬ気合をいれて、自家用畑で大根を作ってい るのを見て、段々その訳に気づいた。

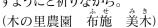
大根はまず、煮物には欠かせない。田舎でよく出る鶏肉、田舎に住む以上、漬け物名人になりたいと思っている。 しいたけ、ごぼう、人参などの煮物にも、大根は欠かせな い。そして、漬け物にすれば、浅漬けから、甘酢漬け、べ ったら漬け、たくわんと多彩に加工できる。あのシャキッ とした歯ごたえの漬け物をポリポリしながらお茶飲みを するのは、実は田舎では喫茶店のケーキセットに匹敵 する楽しみ。また、生で食べきれなければ、干してカラカ ラにし、切干し大根として保存できる。これがまた、干す ことで甘みも栄養価もアップして、漬け物・煮物にもって

こいの便利な常備菜になる。考えてみると、大根という作 物は、1粒の種から芽が出て、根を伸ばし、土の中で肥大 して、あんなに太く重い食べ物になるのだから、食糧に苦 労した時代には、本当に重宝されたのだと思う。栽培は比 較的簡単で、しかも食べ方は多彩。このようなことから、何 はなくともまず大根というように、村人は大根を蒔き、冬の 間中食べるのが当たり前になったのでしょう。

ある日村内の友人が、「昨日大根抜き100本やって、疲 れちまった」というので、「それどうするの?」と聞くと、「干 してたくわんにして家で食うんだよ」「・・・!?」田舎の人は やることがでかい!そして漬け物を本当によく食べる。よそ の家でお茶をするときの楽しみは、そこの家の漬け物が 食べられることにあるといっても良いくらい。だから、私も、

今年も村の家々の軒先に、ずっしり重い大根が、白い足

を日に当てて、干される姿が 見られるでしょう。さて、新米百 姓母ちゃんも、畑から大根引き 抜いて、大根干しをしましょうか。 今年のたくわんが美味しくでき ますようにと祈りながら。





私は、神社仏閣や仏像を見るのが好きです。手の込んだ建物の造りや仏像の美 しいラインを心行くまで眺めるような旅行が好きなので、バブルの時代でありな がら、新婚旅行は京都・奈良を堪能して回りました。(旦那は道連れにしました。) あれから十数年。京都まで行かないでも、近場の寺院などを巡りたいなと思いま すが、家族旅行となると子どもに不評なのは目に見えています。スミレにははっ きり言われました。「寺廻りはいや。」それで毎年一度行く旅行も遊園地やテーマ パークを渡り歩く事になります。

先日も栃木へ旅行となり、東照宮をあきらめて、子ども優先の行程となりまし た。あたしは、ジェットコースターに乗れません。具合が悪くなるからです。主 人に子どもはお任せで、自分でみんなが戻ってくるのをひたすら待つ。回転する コースターも、コーヒーカップも眺めているだけで、目が回りました。

それでも、やはり行こうと思うのは、子どもの楽しそうな顔が見たいからでし ょう。嬉しそうなはしゃいだ顔はただ、ぼんやり待っている時間さえ「来て良か ったな。」と思えます。

子どもがだんだん大きくなると、「親子そろっていける旅行は最後かもしれな い。」と思います。自分の世界が広がる彼らは、いつまで私達とお付き合いして くれるでしょうか。スミレも思春期真っ只中。ユースケも来年は中学生。ユキノ はおマセなので、親から離れて行くのは早そうです。今、時間が止まってしまえ ばいいのにナ、と考える事が増えた気がします。だからこそ、子どもが楽しく過 ごせる場所を親は選んで行くのでしょう。絶対長生きして「お母さん、温泉に浸 かって寺廻りが出来るところへ旅行しよう。」と子ども達に言ってもらおう、そ う思いながら子どもが空中で回転しているのを眺めていました。

- わいわいネット 織田 裕子





リレー Tyty 「思い出の絵本」 ~31~

私がこの本と出会ったのは、小学校低学年の頃だったと思います。「そらいろのたね」という題名に惹かれ、"いったいそれは何の種なんだろう?"とワクワクした思いで手に取った記憶があります。主人公の少年の宝物の模型飛行機と、きつねの宝物の「そらいろのたね」を交換する所から物語は始まります。家に帰り少年が「そらいろのたね」を庭に植えると、そこから「空色の家」が生えてきました。初めは小さなヒヨコの家ぐらいだったのが最後には、人間100人、動物100匹、鳥100羽が仲良く遊べる家になりました。そうなると、きつねは、飛行機よりも家のほうが良くなり、みんなを追い出して独り占めしてしまいます。すると「空色の家」は、ますます大きく

(小島町 永井 理和子)



なり、最後には壊れてしまうと言うお話です。この絵本の中には、同じ作者の「ぐりとぐら」シリーズの"ぐりとぐら"も所々に登場して、作者の主人公を大切に思う気持ちや遊び心を垣間見る事の出来る素敵な作品です。何かの本で読んだのですが、子どもの頃の記憶は心の中の引き出しにしまってあって、勇気が出ない時には背中を押してくれたり、悲しい時にはなぐさめてくれたり、また道を踏み外しそうになった時には戒めてくれたり、知らず知らずのうちに引き出しを開けて乗り越えていくそうです。もちろん引き出しの中身は、良い事ばかりではないと思います。いけない事をして叱られた記憶、親に読んでもらった絵本の記憶、親に褒められた記憶、など様々です。でもそれはすべて"親は、子ども達を愛しているし、いつでも見守っているから"という親心そのものだと思います。今回改めて絵本を読み返してみて、忘れかけていた心の中の大切な部分を思い出させてもらった気がしました。これからは、子どもと一緒に色々な絵本を読み、子どもとともに、自分自身の心の中の引き出しも埋めていけたら…と思います。

前回の思い出の絵本、中野町は小島町の誤りでした。おわびして訂正します。

ほったい意とノムシ



ミノガ科のガの幼虫。雄だけがガの形になり、雌は蓑内に留まり雄を待つ。まるで箱(蓑?)入り娘。卵は蓑内に産卵され、羽化した幼虫は蓑の端から糸をたらして風に乗って分散する。枝葉以外でも蓑を作り上げるミノムシの幼虫を、毛糸や色紙の中に入れて蓑を作らせる子供の遊びもあった。カラフルな蓑で木の枝を飾るのもいかにもにぎやかで楽しそう。そんなミノムシにもいっとき外来種の虫の寄生が原因で、地域によっては絶滅危惧種になる程激減した時期があったそう。なんとか復活はしてきたようですが、身近だと思っていた虫にもそんな危機があったとは。 (關 隆尚)

ちょっとひといき 『美の里』



~広東麺~

折橋町1035-1 TEL 0294-82-2663 定休日 毎週木曜日 営業時間 AM11:00~PM10:00

メニューを広げた瞬間「今日はこれ!」とソッコーで決まる時がある。メニューと私の波長が合ったとでもいいましょうか。冬場によく一致するのは広東麺。定番の醤油ラーメンもいいけれど、「うう、さぶい」なんて思わず口にする季節にいいのはとろみのあるスープの麺。野菜などの具もたっぷり入った見た目にも美しいどんぶりの中、「どれにしようかな」と箸をのばす具を考えて鼻歌まで出てしまう。熱々ですから、ずずっと吸い込むなんてできません。蓮華で大事にすくいあげゆっくり味わっていただきます。とろみのあるスープって栄養を全部逃さずスープに閉じ込めてあるみたい。そんなスープを残すわけにはいきません。最後の一匙までいただきましょう。「これはカロリーじゃなくて、栄養・栄養」と呪文を唱えながら。 (塩原 慶子)



でする。 映画のワンシーンから飛び出したような この絵はどこに描いてあるでしょう?

映画「ローマの休日」や「ティファニーで朝食を」などで有名だったオードリー・ヘップバーン(!?)を真似て描いたのですが、彼女の少女時代や結婚など私生活は悲劇的だったようです。晩年ボランティアで活動し子供達と一緒に写る写真は人間的魅力が凛と輝いて見えました。みなさんも機会があったら映画でも観てくださいネと、自ら絵を描いたお店のご主人沼田さんからのお話です。